

## 監査総合グループ第3回考査

## 試験問題

## 注意事項

＜補習生カードを通路側に置いて、番号が確認できるようにしてください＞

- 試験開始の合図により、試験を始めてください。それまでこの冊子を開くことを厳禁とします。
- この冊子の最後の頁には、「以上」の記載があります。試験開始の合図の後、まず頁を調べて、印刷不鮮明、落丁等があれば黙って手を挙げ、試験監督者に申し出てください。
- 答案は配付した解答用紙で作成してください。答案作成には、万年筆又はボールペン（インクはいずれも黒に限る。）のいずれかを使用してください。ただし、プラスチック製消しゴム等で消せないものに限ります。鉛筆、黒インク以外、こするとインクが消えるボールペンで解答した答案も試験を無効とし、採点いたしません。
- 所属補習所、補習生カード番号、氏名について、各解答用紙の記入欄に漏れのないよう確実にすべて記入してください。未記入項目がある場合は、その解答用紙を採点しない場合があります。
- 解答用紙は、白紙の場合も必ず提出してください。
- 解答用紙は、A3用紙です。切り離さずに提出してください。
- 問題に関する質問には一切応じません。
- 試験時間は2時間です。試験開始60分後から試験終了10分前までの間は、途中退室を認めません。途中退室する場合は、必ず解答用紙を番号順に揃え、裏返して自分の座席の机の上に置き、静かに退室してください。問題用紙は持ち帰ることができます。
- 試験場で使用が認められるものは、次のとおりです。  
筆記用具（ペンケースから取り出すこと）、定規、修正液（修正テープ）、電卓（規定のもの）及び腕時計又は懐中時計（通信機能を有するもの除く）。  
腕時計又は懐中時計は机の上に置いて使用してください。また、使用が認められているもの以外はカバン等にしまい、荷物は全て足元に置いてください。試験開始後は、カバン等から荷物を取り出すことはできません。
- 携帯電話やスマートフォン、タブレット、スマートウォッチ等の通信機器は、電源を切ったうえでカバン等にしまってください。
- 水分補給のため、外装フィルムを剥がしたふた付きペットボトル700ml以下のもの1本に限り試験中に机の上に置くことができます。
- 試験中、やむを得ない事情で席を離れる場合は、挙手のうえ試験監督者の指示に従ってください。
- 試験終了の合図とともに直ちに筆記用具を置き、速やかに解答用紙を番号順に揃え、裏返して自分の座席の机の上に置いてください。
- 不正を行った者には直ちに退場を命じ、その日の考査は無効とします。

（解答用紙の氏名等記載例・マークシート記入例）

※1：所属補習所は自身が所属する[東京・東海・近畿・九州・札幌・仙台・長野・新潟・静岡・金沢・広島・高松]のいずれかを記載すること

※2：補習生カード番号を記載し、丁寧にマークすること。また、誤ってマークした場合は、修正テープで綺麗に消すこと

補習所	補習生カード番号(9桁)									
	番号	2	0	2	3	0	1	2	3	4
東京										
氏名	0	①	●	①	①	●	①	①	①	①
会計 太郎	1	①	①	①	①	①	●	①	①	①
	2	●	②	●	②	②	●	②	②	②
<注意>	3	③	③	③	③	③	③	●	③	③
補習生カード番号を記載し、番号を丁寧にマークしてください。	4	④	④	④	④	④	④	④	④	●
	5	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤
	6	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥
	7	⑦	⑦	⑦	⑦	⑦	⑦	⑦	⑦	⑦
	8	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧
※誤ってマークした場合は、マークの跡が残らないよう、修正テープで綺麗に消してください。	9	⑨	⑨	⑨	⑨	⑨	⑨	⑨	⑨	⑨

## 問題1 実査・立会・確認【配点20点】

問1 実査について、以下の設問に答えなさい。

1. 実査の目的について、空欄①～⑥に当てはまる適切な語句を答えなさい。
  - ・資産の（ ① ）に関する証明力の高い監査証拠を入手する。
  - ・資産の（ ② ）等に関する内部統制の信頼性を確かめる。
  - ・関連証憑など会計記録との突合を行うことにより、当該資産に係る取引記録の（ ③ ）及び（ ④ ）などの監査要点に対する監査証拠を同時に入手する。
  - ・数量、金額等の情報に加えて、担保差入状況、名義人、裏書人、証券番号、保護預け、（ ⑤ ）の有無等に関する追加的な情報を入手する。
  - ・不正・誤謬に対する（ ⑥ ）効果がある。
2. 実査当日に小切手帳、手形用紙綴りを実査した際に、調書に記載すべき情報は何か、具体的に記載しなさい。

問2 立会について、以下の設問に答えなさい。

1. 立会の目的について、空欄①～③に当てはまる適切な語句を答えなさい。
  - ・実地棚卸結果を記録し管理するための（ ① ）による指示と手続を評価すること
  - ・実施されている棚卸手続を（ ② ）すること
  - ・棚卸資産を実査すること
  - ・（ ③ ）を実施すること
2. 立会における実施事項について、空欄①～③に当てはまる適切な語句を答えなさい。
  - ・会社の（ ① ）等を事前に入手し、その内容を把握する。
  - ・（ ② ）が存在する場合には、明示されていることを確認するとともに、説明を求め内容を検討する。また、必要に応じてリスト、預り証等を入手し、現品調査を行う。
  - ・（ ③ ）の有無について説明を求め、資産性について検討する。また、必要に応じてリストを入手し、現品調査を行う。
3. テスト・カウント対象の在庫が、会計上の棚卸資産に正確に漏れなく反映されていることを確認するために実施する具体的な監査手続を答えなさい。

問3 確認状の管理手順について、空欄①～④に当てはまる適切な語句を答えなさい。

- ・会計帳簿をもとに（ ① ）を選定する。
- ・（ ② ）を作成する。
- ・クライアントへ確認状作成を依頼する。
- ・発送金額と（ ② ）の一致を確認する。
- ・（ ③ ）が確認状を発送する。
- ・（ ③ ）が確認状を（ ④ ）する。
- ・（ ② ）へ記入する。

## 問題2 購買・棚卸資産・原価計算【配点40点】

問1 以下の問いに答えなさい。

1. 以下の文章について、内容が正しければ解答欄に○を、誤っていれば×を記入し誤りと判断した理由を答えなさい。

(1) 一般に、購買取引(仕入先選定/契約～購買計画～発注～納品/検収～支払/債務管理)の全てが購買部で実施されるため、会社の購買プロセスの流れを把握するには、通常購買部へのヒアリング等で足りる。

(2) インコタームズの定義で CIF は、売主が船積港で本船に船積みするまでのリスクを負担する点においては FOB と同じである。

(3) 納品書を基に経理部が仕入計上している場合、受領した納品書の全てが仕入計上に反映される業務フローとなっているかは、仕入計上の実在性の観点と関連している。

2. 企業は購買計画において、年間購買計画の策定、月次/日次購買計画の策定及び購買分析を行うことが考えられる。そのうち、年間購買計画の策定と購買分析について、以下の問いに答えなさい。

(1) 年間購買計画を策定する目的を説明しなさい。

(2) 購買分析を実施する目的を説明しなさい。

問2 以下の問いに答えなさい。

1. 以下の文章は、棚卸資産の管理について記述したものである。空欄①～④に当てはまる適切な語句(漢字2文字)を答えなさい。

棚卸資産の計上額は、数式で表すと、( ① ) × ( ② ) となる。実務上、棚卸資産は、( ① ) と ( ② ) のどちらの観点で検証するかということが、議論の出発点となることが多い。

なお、( ① ) に関連する論点としては、原価計算、( ③ ) 方法、( ③ ) 基準があり、( ② ) に関連する論点としては、保管・払出管理、実地 ( ④ ) がある。

2. 以下の文章は、棚卸資産の会計処理や監査手続について記述したものである。空欄①～⑪に当てはまる適切な語句を[語群]から選択しカタカナを答えなさい。

通常の販売目的で保有する棚卸資産について、( ① )の低下による簿価切下額(前期に計上した簿価切下額を戻し入れる場合には、当該戻入額相殺後の額)は( ② )とするが、棚卸資産の製造に関連し不可避免的に発生すると認められるときには( ③ )として処理する。また、( ① )の低下に基づく簿価切下額が、( ④ )の事象に起因し、かつ、( ⑤ )であるときには、( ⑥ )に計上する。( ④ )の事象とは、例えば次のような事象をいう。なお、この場合には、洗替え法を適用していても、当該簿価切下額の戻入れを行ってはならない。

- (1) 重要な ( ⑦ ) 部門の廃止
- (2) ( ⑧ ) 損失の発生

正味売却価額の妥当性を監査手続として検証する際には、( ⑨ )(購買市場と( ⑩ )市場と区別される場合における( ⑩ )市場の時価)から見積製造原価及び見積販売直接( ⑪ )が控除されていることを確認する。

[語群]

ア：売上原価	イ：製造原価	ウ：販売費	エ：営業外費用
オ：特別損失	カ：販売可能性	キ：多額	ク：少額
ケ：収益性	コ：稼働停止	サ：経営者の意思決定	シ：不可避
ス：売却	セ：臨時	ソ：主力	タ：特別
チ：災害	ツ：売価	テ：購入	ト：経費
ナ：販売	ニ：追加	ヌ：事業	ネ：予測可能
ノ：引当金			

3. 以下の文章は、原価差額が生じている場合の監査手続上の検討事項について記述したものである。空欄①～④に当てはまる適切な語句(漢字2文字)を答えなさい。

原価差額について実施する監査手続としては、例えば、以下のような手続が考えられる。

- ・原価差額発生額について、項目ごとの( ① )額と実際発生額との比較を行う。
- ・原価差額の勘定分析を実施して、( ② )項目の有無を確かめる。
- ・発生額について期間比較、予算比較等の分析的手続を実施し、著しい変動があれば( ③ )を明らかにする。
- ・原価差額( ④ )計算に係る資料を閲覧し、棚卸資産と売上原価への( ④ )処理の妥当性を検証する。

4. 棚卸資産の評価に関して、以下の問いに答えなさい。

- (1) 下記の不正事例を読み、情報システムから自動生成された情報について監査上留意すべき点について述べなさい。

会社は、滞留期間に応じて商品の評価を切り下げる評価方法を採用しており、商品入庫日（倉庫納品日）を商品仕入日とみなして、同日を基準に棚卸資産を評価するシステムを採用していた。

このシステムでは、社内での移動でもその時点が商品入庫日と記録され、自動的に滞留商品の評価日が洗い替えられており、大量の店舗閉鎖により物流倉庫への在庫移動が行われた結果、多くの商品の入庫日が洗い替えられ、必要な簿価の切下げが行われなかったことが後になって判明したため、過年度決算の訂正を行った。

- (2) 個別受注方式で生産されている棚卸資産の評価はどのように実施すべきかについて、説明しなさい。

5. 以下の文章は、棚卸資産の評価に関連したリスクについて記述したものである。空欄①～④に当てはまる適切な語句（漢字2文字）を答えなさい。

棚卸資産の評価については、正味売却価額の下落の検討のほか、（ ① ）可能性を考慮する必要がある。棚卸資産には、例えば以下のようなリスクがある。

- ・新しい製品の出現により（ ② ）化して売れなくなる、その他の理由により滞留している。
- ・（ ① ）可能であるが、在庫量が（ ③ ）で全部を（ ① ）することができない。
- ・棚卸資産が（ ④ ）的に劣化している。

### 問題3 販売【配点40点】

以下の各問においては、我が国における収益認識に関する会計基準等に基づいて解答すること。

問1 以下の文章について、内容が正しければ解答欄に○を、誤りであれば×を記入し、誤りと判断した場合は、誤りを指摘するとともに正しい内容を答えなさい。

1. 収益認識は重要な虚偽表示リスクが高いため、販売プロセスの内部統制の運用状況の検証に際しては、監査対象期間のうち特にリスクの高い期間を絞り込んでその有効性を検証する必要がある。
2. 監査クライアントの年間予算や利益計画と売上実績とを比較することで、監査上有用な情報が得られることがある。監査クライアントの経理部長は会社数値に詳しいことから、売上実績と比較する年間予算や利益計画は、経理部長が作成し経理部で保管されている同資料を用いることが望ましい。
3. 売掛金は重要な財務諸表項目となることが多く、統制リスクの程度が高いと判断されることが多いため、通常売掛金については確認を実施する。
4. 監査人は、不正による重要な虚偽表示リスクを識別し評価する際、収益認識には不正リスクがあるという推定に基づき、どのような種類の収益、取引形態又はアサーションに関連して不正リスクが発生するかを判断しなければならない。
5. 監査人は、以下に記載する（A）かつ（B）の場合には、関連する内部統制の運用状況の有効性に関して、十分かつ適切な監査証拠を入手する運用評価手続を立案し実施しなければならない。
  - （A）アサーション・レベルの重要な虚偽表示リスクを評価した際に、内部統制が有効に運用されていると想定する場合
  - （B）実証手続のみでは、アサーション・レベルで十分かつ適切な監査証拠を入手できない場合

問2 売上高に関する監査手続の例について、表の空欄①～⑤に当てはまる適切な語句を以下の[語群]から選択しカタカナを答えなさい。

監査手続の例	
1.	売上高に関する前期の監査調書を査閲し、前期以前の監査で認識された内部統制上及び会計処理上の問題点を把握する。
2.	前期の監査調書の査閲又は経理規程・マニュアル等の閲覧により、売上高に関して会社が採用する会計方針を把握する。
3.	売上の計上に関する（ ① ）が、所定の基準に準拠し継続して適用されているか否かを質問する。変更があった場合には、（ ② ）があることを確かめる。
4.	会計方針に影響を及ぼす（ ③ ）の有無や、法令・税制等の改正による影響の有無について質問する。
5.	監査計画において決定されたアサーションごとに、実施すべき監査手続等について理解するとともに、監査計画立案時以降における状況の変化に対応して、（ ④ ）を変更する必要性の有無を検討する。
6.	売上高、売上利益率、売上数量、単位当たり売価、単位当たり原価、売上控除高等について、以下のような区分により（ ⑤ ）手続を実施し、著しい変動や異常な変動があれば原因を明らかにする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 期間別（例えば、月次、四半期、年次）</li> <li>・ 科目別、品目別、製品ライン別</li> <li>・ 事業部別、部門別、得意先別</li> </ul>
	～以下省略～

[語群]

ア：整備評価	イ：人事異動	ウ：回収条件	エ：分析的
オ：会計方針	カ：実証	キ：正当な理由	ク：監査計画
ケ：得意先元帳	コ：会計事実の変化	サ：残高確認	シ：運用評価
ス：返品	セ：与信管理	ソ：期間帰属	

問3 内部統制の不備に関する下記文章について空欄①～③に当てはまる適切な語句を記載しなさい。

実証手続は、内部統制が有効に機能していることを前提に計画している。そのため、整備評価及び運用評価手続の結果、内部統制が有効でなかった場合、（ ① ）評価を改めて実施し、（ ① ）に対応する実証手続を改めて決定する必要がある。

監査人は、評価したアサーション・レベルの重要な虚偽表示リスクに応じて、実施するリスク対応手続の種類、（ ② ）及び（ ③ ）を立案し実施しなければならない。

問4 貸倒引当金に関する下記文章について、空欄①～⑥に当てはまる適切な語句を答えなさい。

- ・「破産更生債権等」に対する貸倒引当金の設定は（ ① ）法による。これは、債権額から担保の処分見込み額及び（ ② ）による回収見込み額を減額し、その残額について債務者の財政状態及び経営成績を考慮して貸倒見積高を算定する方法である。同見積高につき、原則として貸倒引当金として処理・計上するが、債権金額から直接減額することもできる。
- ・「貸倒懸念債権」に対する貸倒引当金の設定は、「破産更生債権等」の区分に用いられる設定方法の他、（ ③ ）法が認められている。これは、債権の元本の回収及び利息の受取りに係る（ ④ ）を合理的に見積ることができる債権については、債権の元本及び利息について元本の回収及び利息の受取りが見込まれるときから当期末までの期間にわたり当初の約定利子率で割り引いた金額の総額と債権の帳簿価額との差額を貸倒見積高とする方法である。  
割引効果の時間の経過による実現分のうち貸倒見積高の減額分は、原則として（ ⑤ ）に含めて処理する。但しそれを（ ⑤ ）に含めないで貸倒引当金戻入額として処理することもできる。
- ・「一般債権」に対する貸倒見積高は、（ ⑥ ）法を用いる。

問5 新人会計士である補習一郎は被監査会社である甲株式会社の債権評価の検討を担当している。同社から入手した[資料]の内容を踏まえ、以下の問いに答えなさい。

[資料]

2023年3月度 売掛金年齢調査表						(単位:千円)
	～30日	31～60日	61～90日	91～120日	121日～	合計
A社	569,230	-	-	-	-	569,230
B社	464,500	120,700	95,500	92,000	96,000	868,700
C社	481,500	61,300	21,200	-	-	564,000
D社	537,000	50	-	-	-	537,050
合計	2,052,230	182,050	116,700	92,000	96,000	2,538,980

(注) 上記年齢表は、売上計上日からの経過日数に基づき作成されている。

1. 会社が債権管理を行う上で売掛金の年齢調査表を作成するケースが多い。一般的に、こうした年齢調査表を会社が作成する意義について答えなさい。
2. B社は他の得意先と比較して、債権回収に日数を要していることが窺われ、従って新人会計士の補習一郎は、B社は他の得意先よりも債権評価に関する重要な虚偽表示リスクが高いと考えた。この補習一郎の判断は適切であったか。適切であったと考えられる場合にはその旨を、適切でなかったと考えられる場合には、債権評価に関する重要な虚偽表示リスクが高いのか低いのかを判断するために、どのような対応が必要となるか答えなさい。



3. 監査手続を進めたところ、C社の信用状態が悪化していることが判明した。そこで、新人会計士の補習一郎はC社に対して残高確認状を発送した。補習一郎が行った追加的な対応は適切であったと考えられるか答えなさい。適切であったと考えられる場合にはその旨を、適切でなかったと考えられる場合には、どのような対応が必要か答えなさい。
  
4. 会社が作成した上記の売掛金年齢調査表は企業作成情報に該当し、監査に利用する場合には、帳票自体に問題がないかを検証する必要がある。上記の売掛金年齢調査表について監査人が検証を行う場合、帳票の正確性と網羅性の観点からどのような検証手続を実施する必要があるか、解答用紙に沿って答えなさい。

以 上

(この面は計算用紙として使用してよい)

(この面は計算用紙として使用してよい)